



2000年11月初の退学者

日方圭子

英国・サリー大学助産課程学生(ダイレクトエントリーコース)

レベル1教科の授業始まる

入学して2か月が経とうという頃、やっと看護学生のグループから離れてレベル1の授業(助産専門科目)が始まった。基礎科目(レベル0)が必須なのは分かるけれど、肝心の助産科目が始まるまで長すぎた。せめて現場見学の前に少しでもこの科目を始めていたら、丸きりの素人じゃない目で見学できたはずなのに、と皆がスケジュールに不満を感じていた。それと同時に、1回の授業ごとにレベル0教科の何倍も自習課題ができて、一気にコース内容が濃くなった。

クレアの退学

レベル1が始まった次の週、クレアが辞めた。近い存在ではなかったけれど、彼女の歳19歳前後が主流のクラスで溶け込んでいたし、コースに不満があるようには見えなかった。親元を離れるのはこれが初めてで、「ボーイフレンドに頻繁に会えないのが淋しい」とは言っていたけれど、毎週金曜日に同級生の車に便乗して帰宅し、月曜に一緒に登校していたし。他の同級生に聞くと「コースが楽しくなかったみたい。それに一生やりたい仕事じゃないって気がついたらしい」。確かに誰もコースを楽しんでいなかった、先週までは。でも、「レベル1が始まってそれは解決されたじゃない?」「まだ2か月で実習もしていないのに、決断が早すぎるんじゃない?」と腑に落ちなかった。

入学審査を1/10の確率で入ってきた15人だから、卒業まで一緒にと当然のように考えていたし、その上に面接で落ちている大勢のことを思うと、それならクレアの代わりに1人入れたのに……と悔しい気持ちにもなった。去年面接で落ちて、1年待って今年2度目の申請で合格した同級生のサラのような人は、たくさんいるはずだから。

クレアはその数日後には受付の仕事を始めて、生き生きとやっているらしい。助産婦から受付、というのにも私はがっかりしてしまった。

確かに助産/看護とも、大学内の退学率の高さは入学直後から話題になっていた。99年2月始まりの看護グループは290人ほどの入学者のうち1/3近くが辞めているし、助産コース3年生は27人で始まって今は19人のコースとのこと。看護コースの先輩たちに聞くと、1年目で大分辞めるらしい。自分に合わない職業と気がついて辞める人や、試験で落ちるケース、経済的な理由、個人的な理由と原因は様々。それに入学半年後の実習開始とともに大学寮から病院付属の寮に散っていく段階で、友達と離れてそれまでにできたネットワークが壊れ、新しい環境に適応できなくて辞める人も多いらしい。授業料を払っていない分、それだけ責任感なく辞められるというのも要因かな、と私は勘ぐってしまうのだけれど。

助産コース主任のアンジーに言わせると「前

は入学審査が甘かったから、でも今はちゃんと人を見て選んでいるから大丈夫」。また同じ頃、小児科看護でも1人退学者が出た。

ショックの最中メンター(mentor)に会う

クレアの一件があった翌日、現場見学で会い損ねていたメンターの1人、メルと、学内のレストランで授業の合間の昼休みに待ち合わせをした。メンターは実習のとき1対1で指導してくれる助産婦で、基本的に3年間変わらない。病院勤務のメルは病院実習でのメンターで、私にはもう1人、コミュニティミッドワイフのパムが、コミュニティでのメンターになることになっている。

メルは、助産歴6年で私と同年。教育制度が変わって大学でディプロマを取った最初の世代で、東サリー病院勤務と平行してサリー大学で学位コースを取っているの、11月の火曜日は大学に来ているのだった。背がすらっとして、とってもしっかりしてきちっとした印象。見た目の違いだけでなく「病院が第二の家」というのも私と正反対。こちらの質問にはとても丁寧に答えてくれるし、話しやすい。頼りになりそうな人で「当たりだ」と直感した。

クレアが辞めたことのショックから冷めずにいたので、そのことを話してみたら、「若い経験の少ない人には難しい仕事かもしれないわね。今辞めるのは早すぎたと思うけれど、それだけ思い入れもなかったのだろうし。合わない人分かった人がコースに残っても時間の無駄になるだけだから」。

メルという助産婦の仕事が好きな人に来て話せたことで、昨日から引きずっていた落ち込



左が、私の病院でのメンターのメル

んだ気持ちが吹っ切れて元気になった。彼女によると、もう1人のメンター、パムは50歳で「とってもいい人だから安心して大丈夫」らしい。2人違う世代の人と働けるのは面白そうだし、バランスが取れていいかもしれない。彼女と話してすごく前向きになった。

コミュニティ・プロフィール

「ヘルスケアの背景」の授業の一環で“コミュニティ・プロフィール作り”というのがあった。実習先ごとにグループに分かれてその地域の人口、人種、社会階級、住宅事情、教育、職、交通機関、医療、福祉、ボランティア団体、レジャー施設等を調べて、地域の全体像を把握しようというもの。

現場に行ったらグループ皆で集めたデータによると、私の実習先の地域はロンドンの通勤圏内で、教育を受けてきちんとした職業を持っている中流階級が多く住む。10代の妊娠は国で一番低いレベルだし、問題の少ない地域のような。外国人人口は2.5%と少ないのを見て、実習で接する人が皆イギリス人じゃつまらない、とまず思った。次の課題でこれを踏まえて、その地域の1つのグループ(10代の妊娠とか、喫煙者とか)に絞った問題とニーズを議論する小論文を書くことになっている。